

レトロ調無料循環バス「くるりん」で中心市街地への回遊を図る

## 釧路商工会議所

機関名	釧路商工会議所		
所在地	北海道釧路市大町 1 - 1 - 1		
電話番号	0 1 5 4 - 4 4 - 0 0 6 7		
地域概要	(1)管内人口 27万6千人	(2)管内商店街数 17商店街 (釧路市商連加盟数)	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 8 商店街	(2)会員数 426商店	
	(3)空店舗率 15.8% (平成14年度調べ)	(4)大型店空き店舗 6 店	
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成12年度 駐車対策事業 循環バスの運行  
総事業費 14,000千円

### 【事業実施内容】

#### 1.背景

釧路の顔とも言える北大通りを中心として駅西地区を含めた都心部は全長にしておよそ1km近くの距離があり、その真中を通る道路は片側3車線の幅を持つ幹線道路となっている。その距離に加えて都心部に入る車の駐車場は、その両サイド及び周辺に大きなスペースが確保されており、都心を訪れる市民にとって利用しやすいものではなく、また、気候的にも市民が回遊するのに良い環境とは言えない。このようなことから、これまで街の顔として位置付けられてきた都心部に空き地・空き店舗が加速的に増加してきている。

このような状況に対して、平成6年度より都心部商店街は大型店を巻き込んだセールや、各種イベント、インターネットを使った情報事業、カルチャースクール、チャレンジストア等の事業を実施してきた。

駐車場対策としては、平成6年のゴールデンウィーク期間中に金融機関の無料解放を実現させた他、都心部にある駐車場を利用できる「共通駐車券事業」を平成7年度よりスタートした。

中心部の交通混雑の緩和を図るとともに、大気汚染等の環境問題の改善への寄与、かつ近い将来に到来する高齢



釧路市の地図

化社会の交通弱者にも大きな役割を期待しつつ、平成 10 年度に補助事業として採択され、循環バス「くるりん」の運行をスタートした。

これまで、無料運行を 3 年間続けたが、補助が途切れた 13 年度からは 100 円のワンコインバスとして現在も運行中、15 年度も運行の予定。

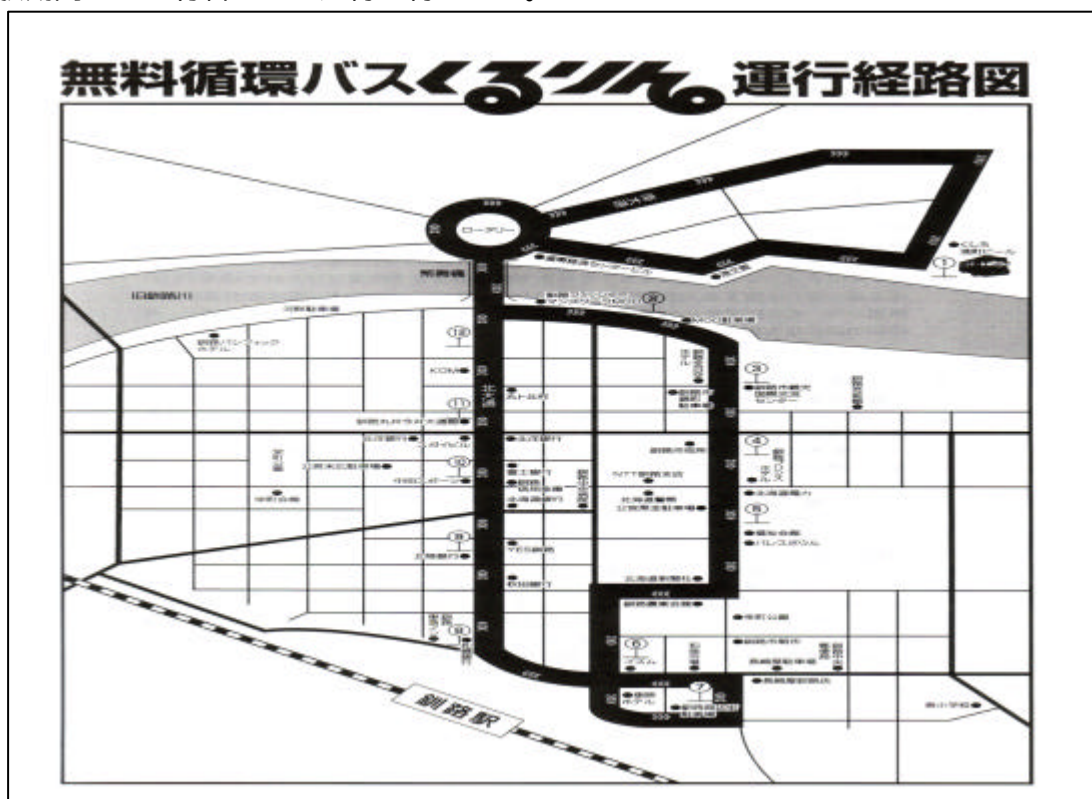
## 2. 事業内容

都心における利用者の回遊性を図ること、交通混雑の緩和を図る為、既存のバス路線を持つ会社と契約を結び、1 日 18 便、午前 10 時から午後 7 時迄の間 30 分間隔で運行した。平成 10 年度から 3 年間は無料、13 年度からは 100 円バスとして運行。平成 12 年 4 月より翌年の 3 月までの 12 ヶ月間、毎日午前 10 時より午後 7 時までの間、1 周約 30 分の循環バスを運行し、主だった駐車場、都市部商業施設、公共施設を結んだ。



循環バス「くるりん」の様子

料金は 4 月から 1 月までの機関は、従来通り無料とし、2 月～3 月の期間は実験期間として有料による運行を行なった。



循環バス「くるりん」の運行経路図

## 【 効 果 】

無料循環バス「くるりん」は、平成 10 年 6 月末に運行を開始してから、利用者の支持を受け、利用者数は順調に推移し、平成 13 年 2 月で累計 578,321 人に達した。月別の利用状況では、観光シーズンとも重なる 7 月及び 8 月が 1 月の利用者が 2 万人を超え、有料の実験が始まった 2 月を除くとコンスタントにひと月に 1 万 6 千人台の利用状況となっている。

平成 11 年度との月別利用者数の比較でもほとんど同じ数字で推移しており、完全に市民及び外来の観光客の方々に定着したものと思われる。

1 バス当たりの平均乗降客数をみても、約 30 人となっており、平成 11 年度とほぼ同じ数字で、依然として「くるりん」の定員 29 人を上回る利用状況であり、「くるりん」の集客効果を示す結果と判断される。

マスコミ等の評価は非常に高く、利用者にも好評であったが、但し、商店街の活性化に結びついたかは疑問である。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

- 1．既存路線バスとの調整
- 2．南大通りバス設置の必要性
- 3．くるりんと連動した販売促進の強化
- 4．運行経費の確保
- 5．共通バス券発行の検討
- 6．ポイントカード利用の検討
- 7．行政等の支援の確保

## 【 教 訓 】

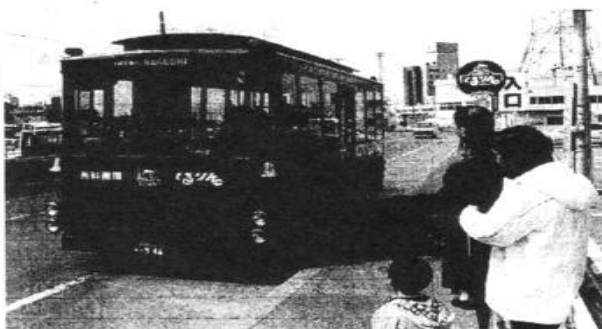
無料の時には非常に好評であったが、有料化により利用者は大きく落ち込んでいる。

## 【 関 連 U R L 】

釧路商工会議所 <http://www.kuhcci.or.jp/>

くしろ街づくり支援センター [www.kuhcci.or.jp/tmo/](http://www.kuhcci.or.jp/tmo/)

商店街等活性化先進事業実施状況



利用者が増える無料バス「くるりん」

# 無料バス 分かれる明暗

## 釧路市中心部の「くるりん」

釧路市中心部の無料循環バス「くるりん」の一九九九年の一日平均利用者が、前年度より二〇多い六百七十九人になったことが、釧路商工会議所のまとめでわかった。市民のすかり定着したくるりんが、二〇〇二年度は、道の運行経費の補助が打ち切られるため、同会議所は有料化の検討を始める。

# 利用者10%増

本年度で補助打ち切り 有料化を検討へ

くるりんは、空回する均利用者には増えお百円を補助している。た中心市街地をめぐり、季節にも増減は多いが、道の補助金は三期間と、同会議所が中心となつた。昨年四月の同五百が限度で、本年度まで打り、九八年六月に運行を始めた。レトロ調のバスを北八十四人、今年三月は、同七百九人に増えている。は、来年度以降もくるりん大連など市中心部を一日十年間運行経費の千六百円を捻出せる意向だが「そのた八割している。九九年の円は、商工会議所と地元商めには有料化を検討せざる利用者は、二十三人に、店街の負担のほか、国道を走らせない」という。達した。同年度も一日平均が計八百円、釧路市が二、昨年度、四百人に行つた

乗客アンケートでは「有料なら行く」と答えたのは簡易だが、六市一市は、高多が抵抗がないとしており、同会議所は「百円程度なら乗ってくれるので、年度末までの有料化のためはと多ている。具体的なのは、本年度の補助金が、確定しただけだが、来年度から有料化のためはと多ている。具体的なのは、本年度の補助金が、

5月9日 道新

新聞に掲載された記事